

学校教育情報機器整備に係る各種計画(概要版)

GIGA第2期における区の学校教育情報機器整備の展開を示す。

令和6年9月までの策定・公表が文部科学省による補助金交付条件となっており、以下は国の作成要領に準拠した構成としている。

1 端末整備・更新計画

(第1期における課題)

授業や家庭学習における活用が日常化する一方で、落下等による破損や、経年劣化に伴う不具合等も増加することとなった。

また修理が完了し、学校に返却するまでの間に代替する予備機も当初の想定より多く必要となったことから、適宜台数の追加を行ってきた。

(今後の展開)

すでに一部の端末で劣化が進行していることから、令和6年度に全体の1/3にあたる3680台の追加配備を行い、令和7年度に残りの配備を行い、GIGA第2期の更新を完了させる。

また、リース期間を現在の5か年から3か年に改めることにより、今後は劣化が進行する前に更新できるようにする。

さらに、今後は毎年3分の1ずつが新品に置き換わるよう計画的に更新を行い、毎年新1年生には早期に新しい端末を引き渡せるようにする。

2 ネットワーク整備計画

(第1期における課題)

令和2年度の1人1台端末の整備に合わせて、全校に1Gbpsベストエフォート型のインターネット回線を敷設するとともに、校内は全ての普通教室と特別教室にて無線LANの環境を整備した。

しかし国が設定した推奨帯域基準に達しない学校が一部存在し、通信速度の改善が必要となっている。

(今後の展開)

令和6年度に通信速度の測定や原因の把握を行うためのネットワークアセスメントを実施する。また、このアセスメント結果に基づく対策についても、令和7年度に実施できるよう必要な予算措置を講じる。

3 校務DX計画

(第1期における課題)

校務系ネットワークと学習系ネットワークの分離によりデータを移動する場合、情報資産ごとに重要性を判別し、暗号化を行う等の煩雑さが生じている。校務のDX化に取り組み、質の高い教育と教員の働き方改革を推進する必要がある。

(今後の展開)

「令和の日本型学校教育」の実現と働き方改革を推進するため、「TAITOフューチャースクール検討委員会」を立ち上げ、望ましい学校教育及び教育環境の在り方等を検討する。

全ての教育情報を有効に連携させ、ストレスなく一元管理させ、校務DXを加速化させるため、校務系と学習系を統合する次世代ネットワークの導入を検討する。

クラウド型グループウェアを有効活用することで、区教育委員会と学校間、教職員間、教職員と児童・生徒間、学校と保護者間のデータ共有を進める。

4 1人1台端末の利活用に係る計画

(第1期における課題)

端末の授業における活用は日常的になりつつあるが、調べる場面での活用が主であり、意見交換する場面や考えをまとめ発表する場面においては十分に活用されていない。

また、端末の家庭学習における活用については、学校差や個人差があり十分に活用されていない。これらのことは、教職員の端末操作方法等の習熟度やICT活用指導力の個人差によるところがあると考えられる。

(今後の展開)

ICTリーダー育成講座にて効果的な活用方法の研究を進めるとともに各校周知を行う。

デジタル教科書やAIドリルの活用促進を行う。

ICT支援員を拡充しICTを活用した授業等の充実を図る。

グループウェアのチャット機能や共同編集機能等のより実践的な活用を推進する。

様々な理由により教室に入ることのできない児童・生徒に対してメタバース環境を充実させる。